

四條畷市福祉計画検討委員会

令和3年3月25日（木）14:00～

出席委員 小寺委員長、北川副委員長、山上委員、前原委員、湯元委員、北井委員、阿瀬田委員、福井委員、猿屋委員、橋垣委員、平山委員、守屋委員、森田委員、岸田委員、村上委員（順不同）

出席職員 松川部長、豊留次長、阪本課長、北村課長代理、濱田、西岡課長、寺本課長代理、春名、杉山、中西課長、菅井課長、西條上席主幹、松本上席主幹

事務局(松本)

それでは、定刻になりましたので、只今から「四條畷市福祉計画検討委員会」を開催させていただきます。

わたくし、司会を務めさせていただきます福祉政策課の松本と申します。よろしくお願ひします。開催に先立ちまして、健康福祉部長の松川よりご挨拶申し上げます。

[松川部長あいさつ]

事務局(松本)

続きまして、本日の会議の成立について、報告させていただきます。本

日は福祉計画検討委員会委員21名中15名が出席でございます。四條畷市福祉計画検討委員会規則第3条第2項の規定により、過半数のご出席をいただいておりますので、会議は成立することを報告いたします。

続きまして、事務局職員を紹介させていただきます。健康福祉部長の松川です。健康福祉部次長兼保健センター所長の豊留です。高齢福祉課長の阪本です。高齢福祉課課長代理の北村です。高齢福祉課職員の濱田です。障がい福祉課長の西岡です。障がい福祉課課長代理の寺本です。障がい福祉課職員の杉山です。同じく春名です。子ども政策課長の中西です。福祉政策課長の菅井です。健康福祉部上席主幹(健康寿命延伸担当)の西條です。どうぞよろしく願いたします。

(守屋委員の介助犬の同席報告)

それでは、これ以降の議事につきましては、議長の小寺委員長に願いたします。

小寺委員長

久しぶりの対面の会議で、コロナ禍の中で各市とも工夫されて委員のみなさんの意見を聴取したらよいか？ネットや書面で意見聴取したり、様々な方法で実施されており、本日もできるだけ短時間ですすめたいと思います。

それでは、早速ですが会議を進めさせていただきます。案件3の会議の

公開についてからでございます。

これにつきまして事務局から説明をお願いいたします。

事務局(松本)

会議の公開の指針となります本市の「審議会等の会議の公開等に関する指針」につきましてご説明申し上げます。本指針では、法律や条例、要綱等により設置されました審議会等の会議について、原則として公開するものとしております。

本会議は四條畷市福祉計画検討委員会条例に定めるものであり、会議を公開にすべきであると考えております。

また、本委員会の内容をできるだけ開示することも必要と捉えておりますことから、本委員会終了後は、議事録を市のホームページに公開したいと考えております。なお、議事録の作成にあたっては委員長に一任いたしたいのですがよろしいでしょうか。

山上委員

検討委員会の公開は、最初から公開しますと決めた方がよいのでは？

小寺委員長

市の公開の規定は？

事務局(菅井)

個人情報に係るもの等種々にわたることから、最初から公開とするもので

はなく、それぞれの委員会で諮って決めています。

山上委員

委員の責任において決めるということは、福祉計画検討委員会も責任をもって決定する必要があると思います。

小寺委員長

各委員は、発言に責任をお持ちください。

小寺委員長

いかがでしょうか。ただ今の説明のとおり本委員会の会議を公開と決定してよろしいでしょうか。また議事録の確認を私に一任していただいてよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

ありがとうございます。会議は公開と決定いたします。また、本委員会終了後、情報公開に努めさせていただくこととします。

それでは、本日の議題となります案件4に移ります。本日審議いただく案件は、「なわてみんなの福祉プラン」および「なわて高齢者プラン」そして「なわて障がい者プラン・障がい福祉計画等」に基づく今年度の取組みの進捗と高齢福祉課と障がい福祉課におきましては、計画策定にかかる審議となります。それぞれをご審議いただくこととなりますが、限られた時間のなかでということになりますので、よろしく願いいたします。

それでは、「なわてみんなの福祉プラン」について、事務局から説明をお願いします。

福祉政策課(松本)

早速ですが、事前に送付させていただきました資料に基づき説明させていただきます。1ページ目をご覧ください。

計画の基本目標1.「地域福祉を支える人づくり ～個々の意識向上」～
にございます

1「福祉意識の醸成」の(1)「福祉意識の啓発」ですが、

今年度の取組み実績と致しましては、令和元年3月に策定した、なわてみんなの福祉プラン(第4期地域福祉計画)を市ホームページに昨年から継続して全文掲載、また図書館(2箇所)や情報公開コーナーにも冊子を引き続き据置きしました。また、引き続き、計画の推進を図るため、関連性のあるイベント事業や研修等がある際には概要版を配付するなど、福祉意識の醸成に努めてまいります。

次に、2ページ目をお開き願います。(2)「福祉教育の推進」ですが、

今年度の取組み実績と致しましては、大阪府の主催により本市と社会福祉協議会が共催のもと令和3年3月に介護人材啓発ビデオを作成しました。

今後も学校や社会福祉協議会などと連携しながら、人権に対する意識の

向上を図り、幅広い年代を対象に福祉学習の推進に向けた取組みを図ってまいります。

次に3ページ、2人材の養成(1)「福祉人材の確保・育成」に移りますが、今年度の取組み実績と致しましては、民生委員・児童委員活動の周知啓発については、引き続き、市ホームページや広報誌を主として発信しました。また、社会福祉協議会と連携して、令和2年12月にボランティア団体と地域団体と共にズーム体験教室を実施しました。ボランティア団体活動に関する情報提供につきましても、市ホームページや広報誌のほか、SNS等の活用も検討しながら周知・啓発に努めてまいります。

続きまして、(2)「市職員の意識の向上」ですが、4ページに移らせていただきまして、今年度の取組み実績と致しましては、職員に対する意識啓発のため、令和3年3月に動画による人権研修等を実施しました。また、引き続き庁内の各研修等を活用しながら意識啓発に努めてまいります。

次に

基本目標2. 地域共生社会の仕組みづくり～「我が事・丸ごと」の地域づくり～

5ページの方に移らせていただきまして、

(2)「地域の多様な活動の促進」でございますが、今年度の取組み実績と致しましては、福祉基金助成金については、4月広報誌や市ホームページを通して申請受付を行い、6団体から6事業の申請がありました。また、助成金交付の適否等を審査する福祉基金事業運営委員会を7月3日に開いたうえで、総額972,000円を交付決定額といたしました。残額約100万円が生じたため、あらためて8月広報誌と市ホームページを通して申請受付を行い、4団体4事業の申請がありました。(6ページに移らせていただき)また、助成金交付の適否等を審査する福祉基金事業運営委員会を11月12日(木)に開いたうえ、381,400円を交付決定額といたしました。

次に、6ページの(3)「自治会活動等への支援」について今年度の取組み実績といたしましては、小地域ネットワーク活動に対する支援については、引き続き、推進主体となる社会福祉協議会が支出する補助金の財源の一部となる府交付金の確保に努めました。(今年度活動助成費申請予定額4,600,000円)また、なわて災害時地域支え合い制度(避難行動要支援者)を推進するため、転入者を対象に市民課でチラシを配付していますが、その中で自治会への加入についても案内しており、引き続き、制度の周知啓発を行っていくなかで促進してまいります。

続きまして、7ページに移らせていただきます。

2「丸ごと」受け止める仕組みづくり、(1)「協働による包括的な支援体制の整備」ですが、

今年度の取組み実績と致しましては、地域生活での課題を「丸ごと」受け止める仕組みづくりとして、生活困窮者及び生活困窮に陥るおそれのある者に対する適切な支援を図るため、関係機関を横につないでいく会議組織とする四條畷市地域生活困窮丸ごと支援会議を令和元年10月に設置し、令和2年12月に4件の新規案件(ひきこもり、8050問題、アルコール依存症等)および1件の継続案件(ごみ屋敷)について会議を開きました。

引き続き必要な情報交換や地域で自立した日常生活及び社会生活を営むための支援体制を検討してまいります。

続きまして、8ページをお開き願います。

基本目標3. 安心して暮らせる社会環境づくり ～誰もが住みやすいまちづくり～

1防災対策の推進ですが、9ページに移らせていただき、

今年度の取組み実績と致しましては、新型コロナウイルス感染症対策に配慮した避難所開設等の訓練を市職員対象に令和2年10月6日に南中

学校で実施しました。また引き続き、市の防災訓練をはじめとした防災対策の推進に努めてまいります。

続きまして、(2)「災害時支援対策の推進」ですが、10ページに移りまして、

今年度の取組み実績と致しましては、個別計画策定研修会を、11月14日実施し、28名の参加がありました。また、避難行動要支援者名簿を管理する地区の代表や自主防災組織、民生委員等に対し、個人情報の取扱いなどの理解を深める研修を3回実施(1回目11月14日(参加者数20名)、2回目11月14日(参加者数7人)、3回目11月18日(参加人数4人)合計31名)し、個人情報に対する基本的な説明により疑問点の解消に努めました。また広報誌2月号で、なわて災害時地域支え合い制度についての掲載を行いました。引き続き、地域での横つなぎを促進し、災害時の連携体制の確立を図ってまいります。

次に、2生活環境の整備の(1)移動環境の整備ですが、11ページに移りまして

今年度の取組み実績と致しましては、令和2年4月1日より本市で運行しましたコミュニティバス東西線・西部線のうち、西部線で「バス車両からタ

クシー車両への変更」と「デマンド運行(予約型運行)の導入」による実証運行をはじめました。デマンドタクシーの、上半期の利用者のうち約9割が65歳以上の高齢者でございました。関係団体で組織する地域公共交通会議の中で、実証運行の状況等を把握したうえで、福祉の観点から移動環境の整備が図れるよう意見・提言してまいります。

次に、12ページの

基本目標4. 適切な支援につなぐ仕組みづくり ～誰もが自立して暮らせるまちづくり～

1「さまざまな地域課題への対応」(2)「生活困窮者、就労が困難な方への支援の充実」のため、13ページに移りますが、

今年度の取組み実績と致しましては、なわて生活サポート相談窓口(社会福祉協議会に委託)については、生活困窮者からの多様で複合的な問題について相談に応じるとともに、新型コロナの影響により新たな支援について適切な情報提供および支援を行いました。(新規相談受付件数326件:令和2年4月～令和3年1月末)新型コロナの影響による生活福祉資金(特例貸付)の社会福祉協議会での面談件数は、令和3年1月末現在で884件ありました。また、就労準備支援事業(社会福祉協議会に委託)についても、雇用による就業が著しく困難な生活困窮者や生

活保護受給者に対し、一般就労に向けた準備としての必要な知識及び能力の形成からの支援を計画的に実施し自立の促進に努めました。
(新規支援者数6名:令和2年4月～令和3年1月末)また、無料職業紹介所についても働く意欲がありながら就労が困難な人(障がいがある・ひとり親・卒業後働けていない等)の相談を受けたうえで、本市独自の求人やハローワークの求人紹介を行っており、(14ページに移り)更なる求職者が増えるよう事業の周知に努めてまいります。(新規相談者数128名:令和2年4月～令和3年1月末)

続きまして、14ページの(3)「その他の支援が必要な人の対応」で今年度の取組み実績と致しましては、地域における高齢者、障がい者、ひとり親家庭などの要援護者等に対する見守り、発見、相談から適切なサービスへの「つなぎ」が機能する体制づくりを推進するため、社会福祉協議会にCSW(コミュニティソーシャルワーカー)の配置を委託したうえで、いきいきネット相談支援センターを運営しています。(新規相談者数69件、令和2年4月～令和3年1月 中地区(川崎・塚米・楠公・雁屋・江瀬美町・中野本町・西中野・東中野・中野新町・美田町・府営清滝・砂 49件)、西地区(北出町・二丁通町・蔀屋 7件)、東地区(滝木間・畑中・清滝・逢阪・岡山・上田原・下田原・緑風台・田原台・さつきヶ丘 13件)また、

新型コロナの影響で新たな生活困窮等の相談の増加等に対応するため、住居確保給付金の要件緩和等の情報提供と適切な支援等を行います。令和3年1月末現在の住居確保給付金の申請件数は、39件の実績がありました。

次に、15ページの3自殺対策の推進、(1)「自殺防止対策の推進」ですが、16ページに移りまして、

今年度の取組み実績と致しましては、自殺対策予防対策の取組みとして、今年度は自殺のサインに気付き、声を掛け、話を聞き、専門家につないで見守る「ゲートキーパー」の役割を担う人材の養成を目的に、大阪府版ゲートキーパー養成研修を、令和2年7月に市職員1名が受講しました。新型コロナによる学校再開後の6月初めに小・中学生向けに子どもの悩み相談(電話番号案内)チラシを作成し、各学校で配付。また、市民等を対象としたゲートキーパー養成講座を、3月8日に開催し30名が受講しました。引き続き、子どもから高齢者に至るまで自殺予防に向けた周知・啓発に努めるため、他市の好事例なども参考にしながら情報発信を行ってまいります。

(報告者交代※健康寿命の延伸西條上席報告)

最後に、18ページをお開き願います。

※健康寿命の延伸につきまして、

今年度の取組み実績と致しましては、健康寿命延伸施策の検討のため、市民健康意識調査を実施しました。その結果、集団に属さず個人で健康づくりをしている層が多くいたことがわかり、基本方針にその結果を踏まえた考え方を取り入れています。健康寿命延伸の啓発として、ホームページに健康寿命延伸サイトを立ち上げ、健康の3要素であるからだ・こころ・つながりを掲げています。また、コロナ禍で運動不足の市民向けに「なわてストレッチ」の動画を作成、3万8千回の再生となっています。そして、紙媒体の配布もあらゆる機会に行いました。3月号広報の折り込みでカラコロ体操とともになわてストレッチ啓発の紙媒体を配布しております。

以上を持ちまして、簡単ではございますが、福祉政策課で今年度取り組みます事業の報告とさせていただきます。

小寺委員長

ただ今、事務局からの説明がありました。この件について、ご意見・ご質問等がございましたらお願いします。

[各 委 員 意 見]

北井委員

13ページの新型コロナウイルス感染症の影響で、生活福祉資金の件数が884件と大きな数字になっていますが、前年度等と比べてどれくらい多いのか？社会福祉協議会が事務を担当しているが、かなり負荷がかかっているようで心配している。これまでにない異常な数字ならば、社会福祉協議会の問題ではなく、市からの事務的な応援等をするのが正しいと思う。

事務局(菅井)

生活福祉資金の制度は、昨年3月25日から新型コロナウイルスの関係で制度が拡充され、通常年間10件程度であったものが、大阪府社協が3月9日に公表した資料では本市の緊急小口資金が382件の決定、総合支援資金が464件の決定、金額でおよそ3億2千800万円となっております。

社会福祉協議会が5名体制で貸付事務を行い、大阪府社協から事前に交付金をいただき、運営しています。職員は、社会福祉協議会職員が3名、人材派遣の職員が2名で対応、市としての協力は、生活困窮者支援員が3名体制でフォローにあたっています。

山上委員

全体的なことで、基本目標について、令和5年度までの地域の支えあい

の目標ですが、去年は新型コロナの影響で、機能しなかった。今年も同じ。基本目標が変わってくるのでは？現状はどういう状況か？令和3年は、新型コロナウィルスの影響で、職員も変則勤務で、地域活動も思うようにいかない。機能しているかどうか？もっと目標値は下がるのでは？目標値を見直す必要があるのでは？

事務局(菅井)

現状値と目標値の差につきまして、目標値は令和3年度が計画策定の中間年となり、分析する年ではありますが、コロナ禍で今分析しても参考にならないので、現在分析を行う予定はしておりません。現状を把握しながら、課題の抽出をして、次年度以降すすめる予定でございます。

山上委員

社会福祉協議会がどこまで機能しているか？コロナ禍で難しい。民生委員も相当苦勞していると思う。現状をどのように把握しているか？民生委員も相当苦勞している？目標値が変わってくるのでは？と質問した。

事務局(菅井)

社会福祉協議会も市と同じ令和5年度を目標とする計画を策定している。市と社会福祉協議会は、地域福祉の両輪で、今後も定期的に社会福祉協議会と協議してまいりたい。

山上委員

社会福祉協議会は何%できてます等目標値を記入した方がわかりやすい。平成29年度と令和5年度しか書いていない。今年は中間年で、現在の年度目標を明記した方が検討しやすい。現状把握したうえで、検討委員会で検討しては？

事務局(菅井)

社会福祉協議会も社会福祉法人として単体として動いているので、すべて上げるのは難しい。社会福祉協議会と目標値を協議してまいりたい。

山上委員

取り組みへの関連で市民と社会福祉協議会と市と書かれている以上、市民は自治会との関係、社会福祉協議会と市民との関係等数値化して進捗状況を書かれた方がよい。現状把握して、検討委員会に諮っていく。今回の報告では、現状がわからない。数値化して委員にわかりやすいようにする方がよい。

北井委員

数値を出すのは難しい場合、例えば優良可等の表示をして、次年度ここに集約するなど、メリハリのある報告の方がよい。

山上委員

数値化が難しいのはわかりませんが、社会福祉協議会や市民が自覚され

ているか？それぞれの地域の動き、社会福祉協議会の活動、数字が難しい場合、それに代わるような、何らかの進捗状況を出す。目標のここまですべてできていますと表示しないと意味がない。目標値の意味がなくなる。5年間のうち、この年度はここまでできている。市、社会福祉協議会としてどこまで現状把握しているか？数値化されていない。進捗状況は、行政の使命である。市民にどういうことを開示するか？責任を持った検討委員会として、事務局も考えていただきたい。

事務局(菅井)

数値化するのは難しい。コメント的な評価を付すことは今後検討してまいりたい。

北井委員

提案ですが、たくさんの委員さんに意見をいただく方がよい。

小寺委員長

数値化の問題で、地域の方もコロナ禍の関係で、活動が自粛され、数値も落ちている。今後の予想もつかない。小地域ネットワークの会合の開催状況の数値も落ちている。PDCA サイクルの関係で分析するとよくわかる。

各委員から意見をいただきたいと思います。

委員

目標値の数値はどのように出しているか？

事務局(菅井)

平成30年度に計画策定時に、アンケートを実施し、分析してパーセンテージを入れています。

委員

アンケート結果をグラフにして出すと見やすいと思う。

委員

母子寡婦福祉会ですが、去年1年新型コロナの関係で、1人1人のコミュニケーションが難しい。1年間旅行等できていない。つながりを持つ活動の1つとして、家庭訪問等をしている。

委員

小地域ネットワークの活動も中止され、代わりに民生委員が活動している。

委員

民生委員の活動でかなりの数字があがっている。それを福祉政策課が把握して、こういう活動をしていますと、紹介すると活動が見えてくる。

委員

コロナ禍で対面での話しあい今はできない。もっと若い人が参加していたら、前向きにやってもらえるのでは？

北川副会長

ボランティア連絡会ですが、現在ボランティアが280人ほどおりますが、高齢化がすすんでいます。元気クラブえんじょいの利用者も令和元年度は利用者約5000人ほどありましたが、令和2年度は新型コロナの関係で半分未満となりました。現在カラコロ体操、書道、コーラス、輪投げなどみなさん楽しんでおられます。ボランティアフェスティバルがあったときは1年間で7人くらいのボランティアが増加しましたが、今年のボランティアフェスティバルはどうか？生きがいをつくる場所として、社会福祉協議会と共に力を入れて取り組んでいきたいと思えます。

小寺委員長

各委員、様々な活動をしておられる。実態を把握して、数字だけでなく、イメージができるような表現方法を検討していただきたい。

山上委員

今後いろんな意見をいただく中で、検討委員会で検討していく。

事務局(菅井)

できるかぎり、数字を示した形での資料づくりに努めてまいります。

小寺委員長

他にご意見等ございませんか、無いようでございますので、これで「なわてみんなの福祉プラン」についての審議は終了させていただきます。